

学校名	大熊町立大野小学校	校長	加 村 育 夫
住 所	会津若松市河東町大田原字村中 1 8 6		
T E L	0242-75-2350	ホームページアドレス	

## 放射線教育と『ふるさと創造学』の展開

### 取組の概要

東日本大震災直後、大熊町教育委員会では、ふるさと復興、再生、創生のための人材育成を目指して、「総合的な学習の時間」での「放射線教育」を独自に開発し、全小・中学校で取り組んできました。

3年前から、双葉郡全体で「ふるさと創造学」に取り組むことになっても、「ふるさとの復興、再生、創生」と「放射線教育」とは切り離せないものと考え、「放射線教育と『ふるさと創造学』」というテーマで取り組んでいます。

### 内 容

#### I 課題設定

○課題探しの旅：課題設定をするために、町役場や仮設住宅を訪問して、問題点を



【仮設住宅の方との交流の様子】

を探り、児童一人一人が自分で追究してみたい課題を決め、解決策（仮説）を練りました。

#### II 課題追究

○自分が立てた仮説をもとに、課題を解決するための方策を自分なりに実施しました。また、実施できないものについては、提言という形にまとめるようにしました。



【大熊町役場の方への提言の様子】

#### III まとめ・表現

○まとめ：自分が考えた解決策が適切であったかどうかを検証し、その成果と残された課題についてまとめました。

○表現：自分の研究を他に発信するためには、どんな方法が良いかを考え、壁新聞にしたり、パワーポイントで発表資料を作ったりしました。



【役場職員の話に聞き入る様子】



【調べたことを整理・分析する様子】

### 教師の感想

○課題設定までのナビゲートが大変でしたが、子どもの思いに寄り添い、子どもたちの「やってみよう」「解決してみよう」「実現してみよう」を形にしたことで、子



【ふるさと創造学サミットの様子】

どもたちは、前向きな気持ちで探究的な学習に取り組んでいました。



○震災後、子どもたちは、地域とのつながりが不足していましたが、役場職員や仮設住宅に住んでいる町民とのコミュニケーションがとれ、大熊町についての理解が深まったと喜んでいます。